

第1編 沿革・地勢・気象

わたしたちのまちでは



8月平均 21.2℃



1月平均 -4.9℃

1. 森町のあゆみ

これまでの森町

古くからアイヌ語でオニウシ（樹木の多くある所）と呼ばれていた森町は、漁業の地として知られ江戸時代初期より箱館周辺の漁民がニシンなどのさかなを求めて出稼ぎに来た所でした。そして、次第に鷺ノ木・尾白内・蛭谷古丹・本茅部・石倉・森に定住をみるようになり、村落が形成されていきました。

1858年、幕府は箱館六ヶ場所の中心的な村落を「村」に昇格したので、鷺ノ木もはじめて正式に鷺ノ木村となり、これを機会に支郷であった森・尾白内は鷺ノ木村より独立を許可し、同年12月森村・尾白内村が成立し、さらに宿野辺も鷺ノ木村より独立して宿野辺村となりました。

明治を迎え、北海道に開拓使が設置されると、その地方出張所が森村に置かれました。明治13年、鷺ノ木・蛭谷・石倉の3村を管轄する鷺ノ木村外2村戸長役場、翌14年、森・尾白内・宿野辺の3村を管轄する森外2村戸長役場が開庁し、さらに同22年、両戸長役場が合併して森外5村戸長役場となり、6村が1つの役場をもつに至りました。同35年、この6村が合併して森村となり二級町村制を施行しました。次いで同40年、一級町村制を施行し、大正10年には管内4番目の町制が施行されて森町が誕生しました。

昭和に入っても漁業を中心とした各産業の発展が続き、昭和14年字名地番改正によって大字名を廃し27字名となりました。太平洋戦争で多くの犠牲をはらって終戦を迎え、新しいまちづくりの取り組みが始まりました。同31年、財政再建整備町村の指定を受け、町民が一丸となって発展に努力し、同36年、ついに健全財政が確立されました。同年、森町大火によって市街地の大半を焼失しましたが、都市計画整備・駒ヶ岳山麓開発事業・濁川地熱開発と着実に躍進を続けました。同47年、同58年には産業経済振興の最重要路線であるバイパスも開通し、平成10年度からスタートした第3次森町総合開発振興計画を礎に21世紀の町づくりに向けてまい進し、平成17年4月砂原町との合併を機に閉庁に至りました。

これまでの砂原町

豊かな幸を運ぶ海、噴火湾に面した砂原町は1330年代にはすでに昆布の採集が行われており1500年代にはニシンを追って和人が訪れ始め、1532年に津軽の蟹田村から権四郎が移住し部落が形成されていきました。明治時代に入ると場所請負制度の廃止とともに漁民が増え、定住者の増加に伴い、明治13年に砂原町戸長役場が設置されました。また、明治39年4月、砂原村と掛澗村の2村合併により砂原村で二級町村制を施行し新たな歩みが始まりました。

昭和時代に入ると、昭和4年に駒ヶ岳が大噴火を起こし、軽石流、降石降灰による被害は軽微でしたが、その後の大雨で押し流された土石流は家屋、道路などに流出し噴火湾への降石降灰は昆布礁を埋め、海水汚濁による漁業への影響などから基幹産業に大きな痛手が残りました。それでも人々は深い強度愛のもと全国的な救済運動にも支えられ、災害から力強く立ち上がりました。

昭和45年、著しい発展とともに新しい時代を迎え、町政施行とともに役場新庁舎も落成しその後小・中学校、公営住宅や水産加工団地の整備などで着々とまちづくりが推進されました。

平成に入り、近代化が進む時代の中、ゆとりや潤いのある暮らしに向けたまちづくりに取り組み、平成4年には町づくり運動推進協議会による「花いっぱい運動」が始まりました。平成13年度から第3次砂原町総合計画がスタートし平成17年4月に森町との合併を機に閉庁に至りました。

これからの森町

平成17年4月1日、森町と砂原町が合併して新しい「森町」が誕生しました。新たな森町のまちづくりを進めていくために平成30年3月には第2次森町総合開発振興計画が策定され「みんなで創ろう海と緑の理想郷」を将来像に掲げ、様々な分野からまちづくりに取り組んでいます。

2. 地 勢

位置	東端東経	140° 46' 01.6"
	西端東経	140° 25' 46.8"
	南端北緯	41° 57' 38.5"
	北端北緯	42° 10' 36.3"



注：世界測地系（国土地理院2万5千分の1地形図より測定）

渡島半島の中央東海岸にそびえる駒ヶ岳山頂の一角から、西北に広がり、東はトドメキ川をもって鹿部町に、南は宿野辺川をへだてて北斗市と七飯町に、南西は渡島山脈によって厚沢部町に、西は茂無部川をはさんで八雲町にそれぞれ境界し、北は空碧く波静かなる内浦湾に臨んでいます。

東西28.9km、南北25.8kmにおよび、北に33.6kmの海岸線を有していて、一般に丘陵性で、渡島山脈により北東に向かって傾斜し、海岸段丘を経て海につきでています。

南東では駒ヶ岳山ろくが北西方に穏やかな傾斜をして、所々に台地と小平野をつくり、また北西には濁川盆地があって狭い平野となっています。山岳には駒ヶ岳（1,131m）のほか、渡島山脈の連峰である狗神岳（899m）、三九郎岳（802m）が主なもので、河川には鳥崎川（20.8km）、尾白内川（16.8km）、濁川（10.6km）等があって、北東に流れて内浦湾に注ぐが、南部の宿野辺川（19.1km）は南東に流れて大沼に注いでいます。

3. 森町の気象特性

本町は、年間の寒暖の差は比較的小さく、北海道内で最も温暖な地域に属している。

4月から5月は、日本海から低気圧や高気圧が交互に日本列島を通過し、天気は周期的に変化する。この期間の日照時間は多く、次第に暖かくなる。

6月から7月にかけて、オホーツク海高気圧の勢力が強いときは、冷湿な東風の影響で気温が低く、曇りや霧となる日が続くこともある。

7月から8月は、太平洋高気圧が北海道へ張り出し、夏型の気圧配置となって暑くなる。

しかし、渡島半島が海に囲まれた海洋性気候であることから真夏日となることは少ない。

9月から10月は、低気圧と高気圧が交互に日本列島を通過し、天気は周期的に変化するが、勢力の強い高気圧が張り出すと晴天が続くこともある。また、秋雨前線と台風の影響で大雨となることもある。

11月から3月は、冬型の気圧配置になることが多く、気温は下がり吹雪になることもあるが、山岳が季節風を遮るため、比較的晴れる日も多く降雪量は少ない。

4. 地目別面積

(単位：km²)

項目	面積	構成比率 %	所有内訳	
			町有地	その他
総数	386.79	100.0	56.44	330.35
田	4.47	1.2	-	4.47
畑	25.31	6.9	2.56	22.75
宅地	5.81	1.6	0.21	5.60
山林	118.58	32.1	15.55	103.03
原野	55.50	15.0	23.76	31.74
牧場	5.01	1.4	4.06	0.95
沼地・雑種地 その他	154.10	41.8	10.30	143.80

注：総数は国土地理院発表による。

：田以下の地目別面積は、各年の1月1日現在「固定資産の価格等の概要調書」によるため
総面積とは一致しないことがある。

資料：税務課

町有地については契約管理課（令和4年3月31日現在）

5. 気象の概況

区分	気温 (°C)			降水量 (mm)		風速 (m/s) 風向 (16 方位)			積雪 (cm)	
	平均	最高	最低	1日 最大	総量	最大 風速	風向	平均 風速	最深 積雪	最深 月日
平成29年	8.1	32.1	-15.3	85.5	1,183.5	13.5	南西	2.7	91	2月21日
30年	8.5	30.4	-18.4	59.5	1,279.5	15.0	南西	2.7	99	2月15日
令和元年	8.7	31.9	-18.8	72.5	786.5	14.9	南南西	2.7	69	2月8日
2年	9.0	26.4	-6.3	71.0	922.5	13.8	南南西	2.6	31	2月8日
令和3年	8.9	26.0	-10.3	85.0	169.5	13.2	南西	2.7	89	3月2日
1月	-4.9	-1.5	-10.3	20.5	69.0	10.5	南南西	2.8	66	1月30日
2月	-3.0	0.8	-8.2	17.5	75.0	11.3	西南西	3.0	60	2月26日
3月	2.8	7.2	-1.8	33.0	99.0	12.6	南南西	3.0	89	3月2日
4月	6.4	11.6	1.1	28.5	102.0	11.5	南西	3.3	1	4月29日
5月	11.7	11.7	7.4	17.0	92.5	9.5	南西	2.7	0	-
6月	16.7	21.8	12.5	28.5	73.0	9.8	南南西	2.4	0	-
7月	21.3	26.0	17.6	16.0	28.5	8.0	南南東	2.1	0	-
8月	21.2	25.2	17.8	85.0	169.5	8.2	北	2.4	0	-
9月	17.5	23.2	12.5	31.5	101.5	7.4	西南西	2.5	0	-
10月	11.7	16.8	6.9	33.5	117.0	9.8	南西	2.6	0	-
11月	6.9	10.6	2.6	50.5	167.5	9.2	西南西	2.7	13	11月25日
12月	-1.2	2.2	-5.5	28.0	90.5	13.2	南西	2.6	19	12月31日

注：森地域気象観測所による観測結果。

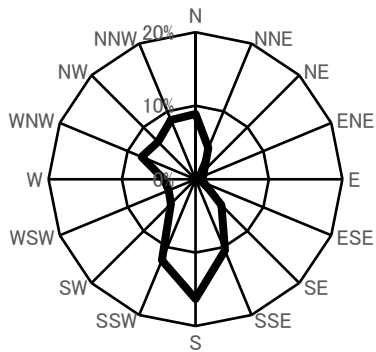
：「）」は資料が許容範囲で欠けている準正常値であることを示す。なお、必要な資料数は原則として全体数の80%を基準としている。

：同一値を観測した日が複数日ある場合の起日は最新日とした。

資料：函館地方気象台

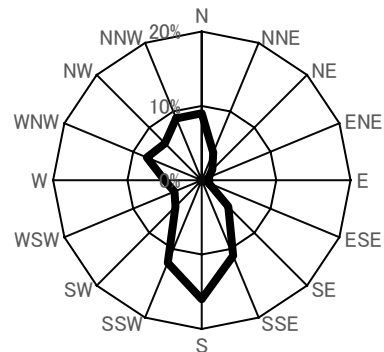
6. 年間風向配置図

(平成28年)



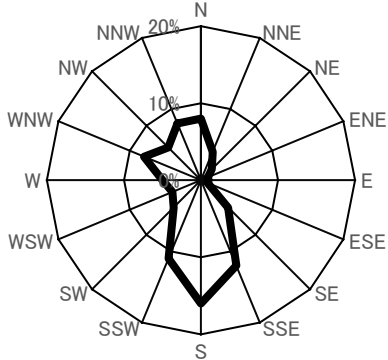
注：静穏0.9%（毎正時の風向）

(平成29年)



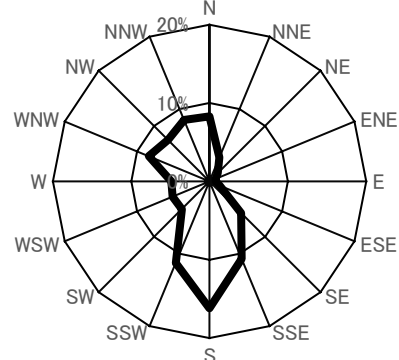
注：静穏0.3%（毎正時の風向）

(平成30年)



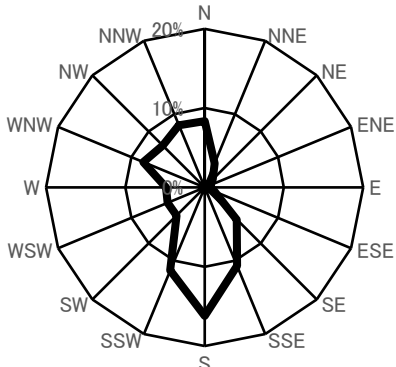
注：静穏1.0%（毎正時の風向）

(令和元年)



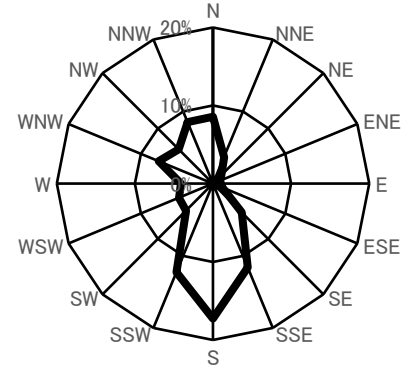
注：静穏0.9%（毎正時の風向）

(令和2年)



注：静穏0.9%（毎正時の風向）

(令和3年)



注：静穏0.8%（毎正時の風向）

注：森地域気象観測所による観測結果。

：風速が0.3m/未満の場合を平穏という。

資料：函館地方気象台

7. 過去の観測データ（観測開始からの1位から5位）

日最高気温の高い方から（単位：℃）

順位	数 値	出現年月日
1位	33.1	令和3.8.5
2位	32.7	平成19.8.12
3位	32.6	平成24.8.21
4位	32.2	平成22.8.6
4位	32.2	平成19.8.14

日最低気温の低い方から（単位：℃）

順位	数 値	出現年月日
1位	-18.8	平成31.2.8
2位	-18.4	平成30.1.24
3位	-18.2	平成30.1.25
4位	-17.9	平成25.1.10
5位	-17.6	平成22.2.4

日最大風速・風向（単位：m/s）

順位	数 値	出現年月日
1位	20（南南西）	平成16.9.8
2位	18.1（東）	平成28.8.30
3位	18（南西）	平成21.5.18
4位	17.3（南西）	平成28.4.17
5位	16.2（南西）	平成27.4.26

日降水量（単位：mm）

順位	数 値	出現年月日
1位	174.0	平成25.8.18
2位	131.0	平成19.7.28
3位	103.0	平成25.8.9
4位	102.5	平成22.8.12
5位	100.0	平成22.8.11

月最深積雪（単位：cm）

順位	数 値	出現年月日
1位	103	平成24.2.26
2位	99	平成30.2.15
3位	91	平成29.2.21
4位	89	令和3.3.2
5位	86	令和4.2.17

日最大1時間降水量（単位：mm）

順位	数 値	出現年月日
1位	63.0	平成29.7.22
2位	57.0	平成25.8.18
3位	55.0	平成19.7.28
4位	54.5	平成29.8.22
5位	51.5	平成25.8.9

注：森地域気象観測所による観測結果。

資料：函館地方気象台（令和4年3月末現在）

8. 北海道駒ヶ岳火山性地震回数

（単位：回）

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成29年	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
30年	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
令和元年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
3年	7	0	0	0	5	0	0	2	0	0	0	0	0

注：西山麓地震計による観測結果。（西山麓：火口原の西南西約4.1km）

資料：札幌管区気象台